

心臓リハビリテーションチーム報告

真崎祥子 慢性心不全看護認定看護師 日本循環器看護学会において ベストプラクティス賞受賞

第22回 日本循環器看護学会学術集会

The 22nd Annual Meeting of the Japanese Association of Cardiovascular Nursing

会 期 2025.9.14(日)・9.15(月・祝)

会 場 仙台サンプラザ 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡5-11-1

当院の真崎看護師が、このたび「超高齢独居心不全患者の在宅看取りを実現した地域連携」という演題で、第22回 日本循環器看護学会 学術集会においてベストプラクティス賞を受賞しました。

近年、社会の超高齢化に伴い、慢性心不全の方が急激に増加しています。さらに、高齢化に伴って独居の方も増えており、「自宅で最期まで過ごしたい」という願いを持つ心不全患者さんの支援は、地域医療にとって非常に重要な課題となっています。特に心不全は、症状の変動が激しく、緊急入院を繰り返しやすい病気です。超高齢で独居という状況下で、患者さんが安心して在宅生活を送り、望む場所で看取りを迎えられるよう支援することは、重要な命題です。我々の心臓リハビリテーションチームは、こうした問題に対し、多職種で組織的に取り組んでいます。

真崎看護師の演題は、住み慣れた自宅での生活を最優先にするため、当院の心臓リハビリテーションチーム、退院支援部門と、地域の訪問看護ステーション、ケアマネジャー、かかりつけ医、薬剤師といった多職種間の連携を強化した実践が評価されたものです。こうした連携により、患者さんの小さな体調変化を地域全体で迅速に共有・対応できる体制を構築しました。

今後も当院では、超高齢社会における心不全ケアの質の向上に努めてまいります。



神戸海星病院 理事長 井上信孝